

2 果樹類の植物成長調整剤

(1) 果樹類の植物成長調整剤使用時の一般的な注意

<CX-10>

- ・効果が劣ったり、薬害の恐れがあるので他剤との混用は避ける。他剤を使用後に本剤を使用する場合、他剤の指示による期間において本剤を使用する。また、本剤使用后2週間は他剤を使用しない。
- ・散布直後の降雨は効果を減ずるので天候を見極めて散布する。
- ・散布や塗布の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣等を必ず着用するとともに、保護クリームを使用する。
- ・作業後は手足、顔などを石鹼でよく洗い、うがい、洗眼し、作業後24時間は飲酒しない。
- ・かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避ける。
- ・直射日光を避け、食品と区別して、低温な場所に密閉して保管する。
- ・有効期限をすぎると十分な効果が得られないので期限内に使用する。

<フィガロン乳剤>

- ・使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- ・石灰硫黄合剤、ボルドー液等のアルカリ性薬剤との混用および本剤散布の約10日前から1～2日後までの近接散布は避ける。また上記以外の薬剤（温州みかんでのエスレル10との混用使用を除く）の場合も、本剤との混用および同日散布は避ける。
- ・使用の際は、薬液が葉先からしたたりはじめる程度にむらなく、丁寧に散布する。
- ・本剤は散布直後に降雨があった場合でも、再散布はしない。
- ・かんきつに使用する場合は、7～8年生以上の樹勢の安定した成木に使用し、若木や樹勢の弱い樹、生理障害が認められる園では、効果が不安定であるので使用しない。
- ・かんきつ及びかき以外の植物に対しても、ごく微量で影響があるので、周辺の植物にはかからないように注意して散布する。
- ・使用後の散布器具などは十分に洗浄する。
- ・自動車などに散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意する。
- ・微量で植物に種々の影響があるので使用に際しては、使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意する。
- ・温州みかん、伊予柑、ネーブル、きんかん以外のかんきつに本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効、薬害を十分確認してから使用する。

<ターム水溶剤>

- ・調製した薬液はその日の内に使用する。
- ・本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用はさける。また、アルカリ性農薬を本剤散布前後に近接散布することはさける。なお、マシン油乳剤を近接散布すると旧葉が落葉することがあるので注意する。
- ・散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるので、天候を見極めてから散布する。
- ・過度の乾燥、着果負担などによって極端に樹勢の低下した樹では旧葉の落葉を助長するので本剤の使用をさける。
- ・重複散布はさける。
- ・極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにする。
- ・使用後の散布器具等は十分洗浄する。

<エスレル10>

- ・調製には必ず水道水、井戸水を使用する。調製した薬液はその日のうちに使用する。
- ・石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用および本剤散布の7～10日前後の近接散布は避ける。また上記以外の薬剤の場合も、本剤との混用および同日散布は避ける（フィガロン乳剤を除く）。
- ・展着剤の加用はしない。
- ・スピードスプレーヤでの散布は避ける。
- ・幼木、樹勢の弱い木、生理障害の出やすい木等では使用しない。異常な高低温、多雨、乾燥などの異常気象が続くときは、落果、異常果などの発生を助長する恐れがあるので、使用を避ける。
- ・異常高温時の散布は薬害を生じる恐れがあるので、使用を避ける。
- ・散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布する。万一散布後に降雨があった場合でも再散布はしない。
- ・一般作物にも微量で薬害を生じるので、周辺作物にかからないよう注意する。使用後の噴霧器などは十分洗浄する。

<ジベレリン>

- ・薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用する。
- ・ボルドー液等アルカリの強い薬剤との混用は避けること。

(2)-1 ぶどう : [CX-10](#) (萌芽促進、発芽率向上)

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう シアナミドを含む農薬の総使用回数2回以内	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	10～20倍 150～200 L／10a 結果母枝に散布または塗布／1回	収穫後発芽前
		15～20倍 150～200 L／10a 結果母枝に散布または塗布／2回	

＜CX-10を使用する場合の注意事項＞

- ・頭痛、めまい等を起こすことがあるため、散布前後、特に散布後、24時間は飲酒をしない。
- ・大粒種は10～15倍、デラウェアは15～20倍を目安に希釈する。
- ・収穫後発芽前に10～20倍希釈液を原則として1回散布すること。ただし、散布適期に降雨が多い地域では、散布する希釈倍数は15～20倍とし、24時間以内に降雨があった場合等には、効果を安定させるため15～20倍希釈液を再処理すること。
- ・施設栽培において催芽期以降の処理は、薬害を生じる恐れがあるので使用しないこと。
- ・登熟不良のほ場では、芽が枯死する場合があるので、10倍での使用は避けること。

(2)-2 ぶどう : [フラスター液剤](#) (新梢伸長抑制)

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう (シャイン マスカット) メピコートクロ リドを含む農薬 の総使用回数2 回以内	新梢伸長抑制	1000～2000倍 100～150 L／10a 散布／2回	新梢展開葉7～11枚時 (開花始期まで)
		500倍 150 L／10a 散布／2回	満開10～20日後 但し、収穫60日前まで
		1000倍 300 L／10a 散布／2回	

＜フラスター液剤を使用する場合の注意事項＞

- ・2倍体欧州系品種では、樹勢が弱い場合に所定の高濃度で使用すると過度に新梢伸長が抑制されたり、過着粒になりやすいので注意する。一方、樹勢が強い場合には所定の低濃度で使用すると新梢伸長抑制効果が劣る場合があるので注意する。

(2)-3 ぶどう: ジベレリン粉末、ジベレリン錠剤 (無種子化、果粒肥大促進、果房伸長促進、着粒安定)

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう (デラウェア) [無核栽培] ジベレリンを含む農薬の総使用回数2回。但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	無種子化、 果粒肥大促進	第1回目: 100ppm 花房浸漬 第2回目: 75~100ppm 果房浸漬又は果房散布 果房散布の場合は30~100 L / 10a 2回(降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	満開予定日約14日前 (第1回目) 及び満開約10日後 (第2回目)
		第1回目: 100ppm 花房浸漬(フルメット液剤1~5ppm液に加用) 第2回目: 75~100ppm 果房浸漬又は果房散布 果房散布の場合は30~100 L / 10a 2回(降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	満開予定日18~14日前 (第1回目) 及び満開約10日後 (第2回目)
ぶどう(2倍体 欧州系品種) [無核栽培] ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	無種子化、 果粒肥大促進	第1回目: 25ppm 花房浸漬 第2回目: 25ppm 果房浸漬 2回(降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	満開時~満開3日後 (第1回目) 及び満開10~15日後 (第2回目)
		25ppm 花房浸漬(フルメット液剤10ppm液に加用) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開3~5日後 (落花期)
ぶどう(キングデラ、ハニーシードレス、BKシードレスを除く3倍体品種) ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	着粒安定、 果粒肥大促進	第1回目: 25~50ppm 花房浸漬 第2回目: 25~50ppm 果房浸漬 2回(降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	満開時~満開3日後 (第1回目) 及び満開10~15日後 (第2回目)
	果房伸長促進	3~5ppm 30~100 L / 10a 花房散布 / 1回	展葉3~5枚時

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう（サニールージュを除く巨峰系4倍体品種） [無核栽培] ジベレリンを含む農薬の総使用回数3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	無種子化、果粒肥大促進	第1回目：12.5～25ppm 花房浸漬 第2回目：25ppm 果房浸漬 2回（降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内）	満開時～満開3日後（第1回目） 及び満開10～15日後（第2回目）
		25ppm 花房浸漬（フルメット液剤10ppm液に加用） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開3～5日後（落花期）
	無種子化	12.5～25ppm 花房浸漬 （満開10～15日後にフルメット液剤による果粒肥大促進処理を行うこと） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開時～満開3日後
	果房伸長促進	3～5ppm 30～100 L／10a 花房散布／1回	展葉3～5枚時

＜ジベレリンを使用する場合の注意事項＞

- ・ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、確認してから使用する。

○巨峰系4倍体品種ぶどう

巨峰、ピオーネ、安芸クイーン、藤稔、サニールージュ、翠峰、黒王、ゴルビー、紫玉、シナノスマイル、高妻、多摩ゆたか、白峰、紅義、伊豆錦、出雲クイーン、イチキマール、ウエハラ540号、オーロラブラック、オリンピア、さがみ、ジャスミン、ダークリッジ、高墨、ハイベリー、ハニーブラック、ハニービーナス、ブラックオーパス、ブラックオリンピア、紅伊豆、紅瑞宝、紅富士、紅やまびこ、竜宝、レッドクイーン、ロードベリー、黄玉、天秀等

○2倍体欧州系品種ぶどう

瀬戸ジャイアンツ、ロザキ、マリオ、ロザリオビアンコ、ルビーオクヤマ、マスカットオブアレキサンドリア、シャインマスカット、CG88435、アルフォンスラバレー、イタリア、甲斐乙女、甲斐路、カッタクルガン、カベルネソービニオン、グリーンサマー、クルガンローズ、ケニギンデルワインガルデン、甲州、甲州三尺、ゴールド、ゴールドフィンガー、ザバルカンスキー、シトロンネル、シャルドネ、赤嶺、セシリア、乍那、チェリー、京早晶、ニューナイ、ネオマート、ネオマスカット、ネヘレスコール、バラディ、ビーナス、ピッテロビアンコ、ブラックスワン、ブラック三尺、フレイムトーカー、貝甲干、紅アレキ、紅三尺、紅環、ベニピッテロ、馬乃子、マスカット甲府、マスカットデュークアモーレ、マスカットハンブルグ、マスカットビオレ、マニキュアフィンガー、モルゲンシェーン、ヤトミローザ、ユニコーン、リザマート、リッシバーバ、竜眼、涼玉、ルーベルマスカット、ルビー大久保、レッドグローブ、レッドネヘレスコール、ローヤル、ロザリオロッソ、アリサ、黄華、紫苑、ヒロハンブルグ等

○3倍体品種ぶどう

キングデラ、サマーブラック、甲斐美嶺、ナガノパープル、安芸シードレス、美嶺等府補足)

大阪府育成品種「ポンタ」（愛称：虹の雫）は3倍体品種ぶどうに含まれる。

- ・ 降雨や異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配のない日を選んで処理する。
- ・ 処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になる恐れがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。
- ・ 本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用を避ける。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつける。
- ・ 本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多（過密着）による裂果発生の恐れがある。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行う。
- ・ 使用時期や使用濃度を誤ると、花振り、着粒過多（過密着）、有核果混入等の恐れがあるので、使用時期、使用濃度は厳守する。
- ・ 無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特に丁寧に処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意する。
- ・ 果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とす。
- ・ 本剤とストレプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができる。使用に当たっては、ストレプトマイシン剤の使用上の注意事項を厳守する。
- ・ 本剤をぶどう（デラウェア）[無核栽培] で使用する場合、満開予定日約14日前よりも早く処理するときは、花振りすることがあるのでフルメット液剤（ホルクロルフェニユロン剤）を加用する。また、フルメット液剤を加用して処理する際は、フルメット液剤の使用上の注意事項を厳守する。
- ・ 本剤をぶどう（巨峰系4倍体品種）[無核栽培] の果房伸長促進の目的で使用する場合は、必ず花房だけを目掛けて花房全体が十分濡れる程度に部分散布する。この時期に誤って大量の薬液が枝や葉にかかると、その翌年に発芽不良などの新梢の生育障害が起こる恐れがあるので、動力噴霧機やスピードスプレーやなどによる全面散布は行わない。

(2)-4 ぶどう：フルメット液剤（ホルクロルフェニユロン）

（ジベレリン処理適期幅拡大、果粒肥大促進、着粒安定、花穂発育促進）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう (デラウェア) [無核栽培] (露地栽培) ホルクロル フェニユロン を含む農薬の 総使用回数2回 以内 但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内	ジベレリン 処理適期幅拡大	1～5ppm 花房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開予定日 18～14日前
	着粒安定	2～5ppm 花房浸漬 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～ 満開時
		5ppm 花房散布 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	果粒肥大促進	3～5ppm 果房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開約10日 後
		3～10ppm 果房散布(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう (デラウェア) 〔無核栽培〕 (施設栽培)	ジベレリン 処理適期幅拡大	1～5ppm 花房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開予定日 18～14日前
	着粒安定	5～10ppm 花房浸漬 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～ 満開時
	果粒肥大促進	3～5ppm 果房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開約10日 後
		3～10ppm 果房散布(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
ぶどう(2倍体 欧州系品種) 〔無核栽培〕	着粒安定	2～5ppm 花房浸漬(開花始め～満開前の場合) (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～ 満開前 又は満開～ 満開3日後
		2～5ppm 花房浸漬(満開時～満開3日後の場合ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	果粒肥大促進	5～10ppm 果房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開10～15 日後
	無種子化果粒 肥大促進	10ppm 花房浸漬(ジベレリンに加用) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開3～5日 後(落花期)
	花穂発育促進	1～2ppm 花房散布 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	展葉6～8枚 時
ぶどう(3倍体 品種) 〔無核栽培〕	着粒安定	2～5ppm 花房浸漬(開花始め～満開前の場合) (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	開花始め～ 満開前 又は満開時 ～満開3日 後
		2～5ppm 花房浸漬(満開時～満開3日後の場合ジベレリンに加用) (ジベレリン第2回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	果粒肥大促進	5～10ppm 果房浸漬(ジベレリンに加用) (ジベレリン第1回目処理は慣行) 1回(降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	満開10～15 日後

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期
ぶどう（サニールージュを除く巨峰系4倍体品種） 〔無核栽培〕 ホルクロルフェニユロンを含む農薬の総使用回数3回以内 但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内	無種子化果粒肥大促進	10ppm 花房浸漬（ジベレリンに加用） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開3～5日後（落花期）
	着粒安定	2～5ppm 花房浸漬（開花始め～満開前の場合） （ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	開花始め～満開前 又は満開時～満開3日後
		2～5ppm 花房浸漬（満開時～満開3日後の場合ジベレリンに加用） （ジベレリン第2回目処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	
	果粒肥大促進	5～10ppm 果房浸漬（ジベレリンに加用するか、またはフルメット液剤を単用で処理） （満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行） 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開10～15日後
ぶどう（巨峰系4倍体品種） 〔有核栽培〕	花穂発育促進	1～2ppm 花房散布 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	展葉6～8枚時
	果粒肥大促進	5～10ppm 果房浸漬 1回（降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内）	満開15～20日後

＜フルメット液剤を使用する場合の注意事項＞

- ・ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、フルメット液剤の有効成分であるホルクロルフェニユロンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分（品種群）に該当するか、確認してから使用する。※各品種の区分についてはジベレリンの項と同じ。
- ・本剤の使用により、着粒過多による裂果、着色遅延、果粉の付着不良、糖度低下や果梗の硬化による脱粒等品質に悪い影響を及ぼす恐れがあるので、使用に当たっては開花前の整房、着粒後の摘粒及び結果量調整等の栽培管理を適切に行う。
- ・使用時期や使用濃度を誤ると、有核果混入や果面障害（果点のコルク化）、着色遅延及び果色変調等の恐れがあるので、使用時期、使用濃度は厳守すること。
- ・降雨や異常乾燥（フェーン現象等による異常乾燥）の心配の無い日を選んで処理する。
- ・処理後の天候急変（降雨、異常乾燥）で本剤の吸収が不十分になる恐れがある場合には、ホルクロルフェニユロンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。
- ・樹勢が健全か、強い方が安定した効果が得られるので、樹勢は強めに維持する。樹勢の弱い樹では効果が不十分なので使用を避ける。
- ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。なお、ジベレリンと混用する場合は、ジベレリンの使用上の注意事項に留意し、ジベレリン溶液に、本剤が所定濃度になるように添加し、よくかくはんしてから使用する。
- ・調製した薬液は効果の低下の恐れがあるので、調製当日に使い切る。

(2)-5 ぶどう：アグレプト液剤（無種子化）

作物名	使用目的	使用方法	使用回数	使用時期
ぶどう （ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数1回）	無種子化	1000倍（200ppm） 散布（200～700L／10a） 花房散布（30～100L／10a） 花房浸漬 花房浸漬 （第1回目ジベレリン処理と併用）	1回	満開予定日14日前～開花始期 満開予定日14日前～満開期

＜アグレプト液剤を使用する場合の注意事項＞

- ・石灰硫黄合剤、ボルドー液などの強アルカリ性薬剤及び石灰、タルク、ベントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用は避ける。
- ジベレリン液に添加使用する場合
 - ・第1回目ジベレリン処理時にジベレリン液に添加して花房浸漬処理し、第2回目ジベレリン処理（単用）を必ず行う。
 - ・展着剤は加用しない。
 - ・薬剤は使用の都度調整し、なるべく調整当日に使用する。また調整液は、なるべく日陰におく。
 - ・必ず処置適期に使用し、所定濃度を厳守する。

(2)-6 ぶどう：アブサップ液剤（着色促進）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
ぶどう （巨峰）	着色促進	100～200倍 1果房当たり2～10ml	着色始期～ 着色開始 2 週間後	アブシシン酸を含む農薬の総使用回数は1回
ぶどう （ピオーネ）		果房散布／1回		

＜アブサップ液剤を使用する場合の注意事項＞

- ・薬液は使用の都度調整し、なるべく調整当日に使用する。
また、調整液はなるべく日陰に置く（紫外線で分解されやすいため）。
- ・湿度が高い時の使用は控える（乾きにくい、果粉溶脱）。
- ・本剤は移行性がないため、果房全体にムラなく散布する。
- ・散布液量が多かったり薬液の粒が大きかったりすると、果面の汚れや果粉溶脱の恐れがあるため注意する。また、果房周辺の葉に飛散しない様に必ず果房だけを目掛けて散布する。
- ・噴霧は、なるべく薬液の粒が小さい霧状・ミスト状が望ましい。
（例：果房とノズルをやや離して散布すると、大きな粒の薬液は果房に付く前に落ちて、比較的小さな粒の薬液が果房に付く）
- ・着色が果実成熟よりも先行するため、収穫前に糖度などの果実品質を確認する。
- ・栽培管理、肥培管理などが不十分な園や異常天候時（異常高温など）では、十分な効果が得られないことがあるので、そのような場合には使用を避ける。

(3)-1 かんきつ： **フィガロン乳剤**（夏秋梢伸長抑制）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	1000～2000倍 葉先からしたたりはじめる程度 (250～500 L／10a) 立木全面散布／1～2回	新梢萌芽期 (収穫14日前まで)	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数は4回以内 (1000倍希釈散布は2回以内)
かんきつ（温州みかんを除く）		新梢萌芽期 (収穫60日前まで)	

＜フィガロン乳剤を使用する場合の注意＞

- ・温州みかんの夏秋梢伸長抑制に使用する場合は、他の使用目的（摘果、浮皮軽減、熟期促進）に使用しない。
- ・連年施用すると樹勢が低下する場合がありますので注意する。

(3)-2 かんきつ： **フィガロン乳剤**（全摘果、間引摘果）

作物名	使用目的	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	全摘果	1000倍 葉先からしたたりはじめる程度 (250～500 L／10a) 摘果したい部分に散布／1回	生理落果最盛期 (満開10～20日後)	エチクロゼートを含む農薬の総使用回数は4回以内 (1000倍希釈散布は2回以内)
		1000～2000倍 葉先からしたたりはじめる程度 (250～500 L／10a) エスレル10の2000～8000倍希釈液と混合して摘果したい部分に散布／1回		
	間引摘果	1000～2000倍 葉先からしたたりはじめる程度 (250～500 L／10a) 立木全面散布／1回	満開20～50日後で 生理落果のある時	

＜フィガロン乳剤を使用する場合の注意＞

○全摘果に使用する場合は以下の事項に注意する。

- ・幼木等で全摘果したい場合は樹全体に、部分的に全摘果したい場合は摘果したい部分だけに1000倍液を均一に散布する。
- ・摘果効果を高めるために気温が高くなることが予想される日に散布することが望ましい。
- ・エスレル10の濃度が高い（2000倍）と旧葉の落葉を助長することがあるので注意する。

○間引き摘果に使用する場合は以下の事項に注意する。

- ・本剤による摘果効果は一般的に果径が約20mm以下の時は大きく、また25mm以上の時は小さいので、着果量の多い場合は早めに散布する。
- ・摘果効果は樹勢や気象条件等によっても変動するため、本剤だけで十分な摘果効果を期待すると摘果過多になることがあるので、本剤による摘果はやや摘果効果不足程度をねらう方が安全である。したがって通常（平均的着果量の時）2000倍で使用する。
- ・散布時あるいは散布後2～3日間高温（30℃以上）が続くと摘果過多になることがあるので、気象条件を見定めてから散布する。
- ・着果量は樹によって異なるので散布は葉果比の低い樹に対して重点的に行う。また直花果の多い場合は摘果過多になる恐れがあるので、散布時期をやや遅めにするなど十分に注意する。
- ・本剤による落果が終了した後に仕上げ摘果を行い、品質の均一化、樹勢の維持に努める。

- ・ 散布は樹冠全体に均一にかかるように行う。特に樹冠頂部は薬液がかかりにくく、手直し摘果もしにくいので、むらのないようにていねいに散布する。

(3)-3 かんきつ： **フィガロン乳剤**（浮皮軽減）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	2000～3000倍 葉先からしたたりはじめる程度 (250～500 L／10a) 立木全面散布／2回	1回目：蛍尻期 2回目：蛍尻期の2週間後 (収穫7日前まで)	エチクロゼートを含む 農薬の総使用回数は4回 以内(1000倍希釈散布は 2回以内)

(3)-4 かんきつ： **ターム水溶剤**（摘果）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	1-ナフタル酢酸を含む 農薬の総使用回数
温州みかん	500～1000倍 250～500 L／10a 立木全面散布または枝別散布／1回	一次生理落果発生期 (満開10～20日後)	4回以内(一次生理落果発生期は 1回以内、二次生理落果発生後は 3回以内)
	1000～1500倍 250～500 L／10a 立木全面散布または枝別散布／1回	二次生理落果発生期 (満開20～40日後)	
かんきつ (温州みかんを除く)	1000～1500倍 250～500 L／10a 立木全面散布または枝別散布／1回	生理落果発生期 (満開10～50日後)	3回以内

＜ターム水溶剤を使用する場合の注意＞

○温州みかんに使用する場合は次の事項に注意する。

- ・ 摘果を目的に使用する場合は、一次生理落果発生期(満開10～20日後)では1回以内とし、2回使用しない。
- ・ 二次生理落果発生期(満開20～40日後)で使用する場合は、一次生理落果の状況を確認した後で使用する。
- ・ 樹全体を摘果したい場合は立木全面に、部分的に摘果したい場合は摘果したい部分のみに散布する。
- ・ 全摘果など効果を高めたい場合は、気温が高くなることが予想される日にたっぷり、間引き摘果など一定量の果実を残したい場合は、薬液が葉先から滴り落ちない程度に少なめに散布する。
- ・ 間引き摘果の目的で使用する場合は、次のような条件では過摘果のおそれがあるので使用をさける。また、本剤散布前後4～5日のマシン油乳剤の近接散布をさける。
 - ・ 30℃以上の高温下
 - ・ 散布後に高温が2～3日続くと予想される場合
 - ・ 樹勢の弱い樹
 - ・ 病虫害の著しい被害を受けた樹
- ・ 本剤による摘果が終了した後に仕上げ摘果を行い、品質の均一化や樹勢の維持に努める。

○かんきつ（温州みかんを除く）に使用する場合は次の事項に注意する。

下記に記載した使用目的と作物の組み合わせ以外に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用する。

「摘果：天草、伊予柑、清見、せとか、はるみ、湘南ゴールド、ぽんかん、不知火、たまみ」

(3)-5 かんきつ：ジベレリン粉末、ジベレリン錠剤（浮皮軽減）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん	1～5ppm 100～400 L／10a 果実散布（ジャスモメート液剤（プロヒドロジャスモン） 1000～2000倍液に加用）／1回	収穫予定日の3ヶ月前 （収穫45日前まで）	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内

＜ジベレリンを使用する場合の注意事項＞

本剤処理により着色が遅延することがあるため、貯蔵期間によって使用濃度を調整する。

使用濃度の目安

- ・貯蔵用または樹上完熟の温州みかんでは、概ね3.3～5ppm。
- ・貯蔵しないあるいは貯蔵期間が短い温州みかんでは、概ね1～3.3ppm。
- ・本剤処理により、薬斑が残ることがある。

(3)-6 かんきつ：ジベレリン粉末、ジベレリン錠剤（落果防止）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん、不知火、はるみ	25～50ppm 50～100 L／10a 散布／1回	開花始め ～満開10日後	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内
温州みかん	10ppm 50～100 L／10a 散布（ジャスモメート液剤（プロヒドロジャスモン） 1000倍～2000倍液に加用）／1回		
不知火、はるみ	25～50ppm 50～100 L／10a 散布／1回		
きんかん	25～50ppm 50～250 L／10a 散布／1回	満開10～20日後の幼果期	ジベレリンを含む農薬の総使用回数は1回以内
ワシントンネーブル	500ppm 30～40 L／10a 幼果に散布／1回		
かんきつ（不知火、はるみ、ワシントンネーブル、日向夏、温州みかん、きんかんを除く）	25～50ppm 50～100 L／10a 散布／1回		
日向夏 （無種子化、落果防止）	300～500ppm 30～40 L／10a 果実散布／1回	満開7～10日後	

＜ジベレリンを使用する場合の注意事項＞

- ・本剤処理により生理落果が軽減され着果が安定するが、品種等により本剤に対する感受性が異なるので、初めての品種等に使用する場合は事前に薬効薬害を確認した上で使用する。
- ・果面の粗滑や果皮の厚さ等果実品質への影響が懸念される場合があるので、使用時期、濃度は守る。

(3)-7 かんきつ：[ジベレリン粉末](#)、[ジベレリン錠剤](#)（花芽抑制による樹勢の維持）

作物名	使用方法と使用回数	使用時期	総使用回数
温州みかん、 不知火、はるみ	25～50ppm 50～250 L／10a 立木全面散布または枝別散布／1回	収穫直後 ～収穫約1ヵ月後	ジベレリン を含む農薬 の総使用回 数は3回以内
温州みかん	10ppm 50～250 L／10a 立木全面散布または枝別散布 （ジャスモメート液剤（プロヒドロジ ャスモン）1000～2000倍液に加用）／ 1回		
	2.5ppm 200～700 L／10a 立木全面散布または枝別散布 （マシン油乳剤 60～80倍液または 展着剤に加用）／1回	11～1月 但し収穫後	
不知火、はるみ		収穫後～3月	
かんきつ（不知火、はる み、温州みかんを除く）	25～50ppm 50～250 L／10a 立木全面散布または枝別散布／1回	収穫直後 ～収穫約1ヵ月後	ジベレリン を含む農薬 の総使用回 数は1回
かんきつ（不知火、かぼ す、はるみ、すだち、平兵 衛酢、長門ユズキチ（無 核）、温州みかんを除く）	2.5ppm 200～700 L／10a 立木全面散布または枝別散布 （マシン油乳剤 60～80倍液に加 用）／1回	収穫後～3月	

<ジベレリンを使用する場合の注意事項>

- ・期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しない。
- ・低温が続いた年（極端な低温の年）または裏年の場合は、遅い時期の低濃度処理を心がける。
- ・散布の際は薬液が葉先からしずくとなり落下する程度に散布する。
- ・マシン油乳剤はジベレリンに加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意書きを確認のうえ、使用する。

(4) いちじく：[エスレル10](#)（熟期促進）

使用方法と使用回数	使用時期
500～1000倍 果面散布（果面がぬれる程度）／1果当り1回	成熟予定15日前 （果実生長第2期終期）

<エスレル10の注意事項>

- ・使用時期を誤らないよう注意する。